

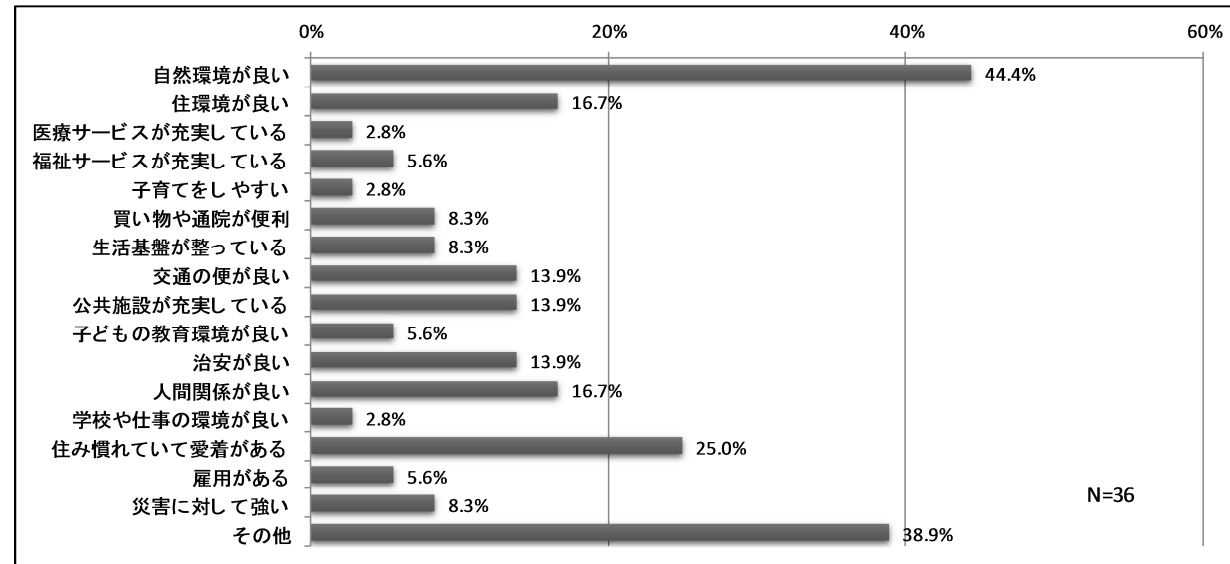
■ 三木みらい会議（吉川地区）アンケート結果の概要（主な意見）

- 開催日時：平成31年1月22日（火）19時～20時
- 開催場所：吉川町公民館
- 参加人数：38人（男性 33人、女性 5人）

※市3人、コンサル2人参加

年齢	30代	40代	50代	60代	70代
人数	1人	7人	11人	14人	5人

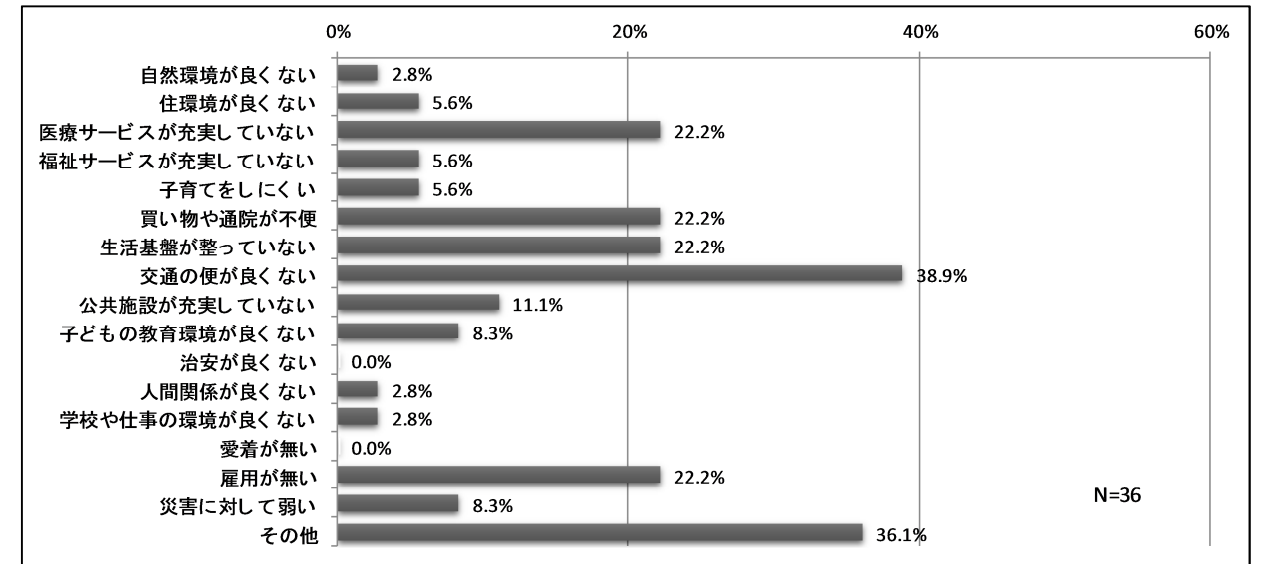
① 地域の良さ（複数回答）



<その他>

- ・災害がない ・地産地消 ・山田錦やブドウなどおいしい旬の農産物 ・空気が綺麗
- ・大きな家族のようであり、それぞれがみんなを気にかけている。
- ・高齢者のサロンを毎日欠かさず続けていることが自慢。一度無くなった老人会を再び立ち上げて、活動をしていること。地元のお寺は無人となったけど、役員を担いながらなんとか機能していること。困ったときの助け合いができること。
- ・兵庫県広域防災センター ・お互いに助け合える仲間がいる。 ・地区内はよくまとまっている。
- ・人と人とのつながりが強く昔ながらの行事が残っているところは、子育てをしていく上でとても良い環境
- ・皆が吉川町を誇りに思っている。 ・黒滝

② 地域の課題（複数回答）



<その他>

- ・災害への意識が低い ・町民と市政で溝がある。 ・人口減少、少子高齢化 ・限界集落になりつつある。
- ・高齢となって田畑を守る人がいなくなる。 ・山の荒廃が進んでいる。
- ・隣保の数を減らそうという合同の話が持ち上がるがうまくいかない。
- ・鳥獣被害が年々ひどくなるので何か対策を考えないといけない。 ・空き家の増加
- ・わがごと意識の欠如（住民の諸事に対する参画意識が低い） ・地域社会の担い手不足
- ・いろんな団体活動が活発であったのが自慢だったが、各種団体の人数が減り弱体化している（老人会、婦人会、消防団等） ・病院（眼科、耳鼻科等）が無い。
- ・個人のプライバシーが重視されて隣近所の関係・情報が希薄になっている。

③ 地域がどのようなまちになれば良いか

- ・若者が定着できるようなまちづくりや雇用の創出
- ・若者が元気になれるまちづくり。若者が企画するイベント（呼び込めるような）広報、新聞でPR、スポーツ舞台イベント（ライブ）
- ・今以上に少子高齢化と人口減少が進むと思われるので、多世代、多文化を受け入れ、顔見知りを増やせるまち
- ・物の豊かさよりも心豊かに誰もが住みやすいまち
- ・自然が豊かで住み続けられるまち
- ・仕事で出ていく若者が戻ってきたいと思うまち
- ・伝統を守りつつも現代社会に適応したまち
- ・山田錦を更に利用した（後に継いでくれる人が必要）まち
- ・若者に決定権を委ねられるまち
- ・安全、安心なまち（道路歩道、街灯等、整備の行き届いたまち）
- ・子どもたちの声が聞こえるまち
- ・子どもたちが安全、安心で暮らせるまち
- ・子育て世代が暮らしやすいまち（働く場所、住む場所等）

④ ③のようなまちになるために、

地域で取り組むことが考えられるまちづくり活動

- ・人と人、人と地域の絆づくり。コミュニケーション、コミュニティづくり
- ・地域産業のPR
- ・吉川で酒づくり
- ・村米制度のあり方が今の時代にあっていない（吉川の山田錦の販路を全国へ広げる）。
- ・家庭力を上げていく。
- ・地域を見直す（良いところ発見）
- ・災害の意識を持つ人の育成（災害に強いまち）
- ・子どもが主体的に学ぶ体制づくり
- ・防犯、防災等に役立てるために、住民同士の交流の機会を増やす。
- ・吉川町自治区の創設
- ・残ってくれる若者にまちを代表できるような自信を持ってもらえる取組が欲しい。10代にはまちの良さ伝える教育が必要である。
- ・まちに住みたいと思うには、イベントではなく心を満足してもらう必

⑤ その他自由意見

- ・高齢者が多くなるので病院とのアクセスが必要なので、医療移動バス、小さなマイクロバスを週に1度、地域、地区を送迎巡回してもらいたい。
- ・まち協の運営委員の意見よりも、幼稚園～高校生に対するアンケート調査実施を優先することが必要である。その結果を踏まえ基盤づくりを進めるべき。このアンケート結果と現状、現実を踏まえて各地域で実現できるかの選択が必要である。
- ・行政に求めたいのは交通整備、教育政策の充実ですが、住民一人ひとりの方が協力して努力されていることを実感する毎日です。人口増につながるよう施策に協力していきたいと思います。
- ・三木ホースランドパーク、ネスタリゾート等の既存施設を活用して宿泊施設として農業体験、自然体験等のプログラムを提供した地域活性化策を作成してはどうか。
- ・山田錦、ぶどう、いちご、よかたん温泉以外の特産品をつくる。

- 三木ブランド品が有名で、そのブランドに関わりのある仕事が絶え間なくあるまち
- 子どもの教育、高齢者のケアができるまちづくりが重要
- 地元で仕事（就職）ができて、安定した収入があり、家族が安心して生活していける環境があるまち
- 健康寿命が日本一のまち（参考：北大阪健康医療都市“健都”）
- 災害に強いまち（三木市には兵庫県及び近畿圏の防災拠点ともなりうる県広域防災センターがある）
- 相互扶助（助けあい精神）の豊かなまち（相手のことを思いやる温かな心を持った人が多いまち）
- 地域の特性を活かしたまち
- 農業、商工業、すべてが盛り上がるまち
- 豊かな自然環境を活かした人と人の触れ合いを大切にしたまちづくり
- 大阪、神戸の通勤圏としての地の利を活かしたまちづくり
- 安全で安心して住めるまち。元気なまちにしたい。
- 小さいまちであるので近隣等の顔を見ての防犯、防災を考えたい（個人情報で踏み込めないことを理由にするのではなく）
- 公助に頼るのではなく自助で元気のあるまちをつくりたい。
- 若い世代の人々が吉川に残って生活できる地域づくり
- 美しい河川（河川の改修）のまち
- いじめのないまち

- 要がある。地区から意見を貰う際に若者の言葉をしっかり取り入れる。
- 地域防犯ネット
- 元気な高齢者がもっと活躍できる場を設ける。（負担の少ない事がよい）
- 農業の大規模化（集団営農等）
- 空き家が増えているので若い人たち（家族）が利用できるようにすればよいと思う。
- 地域ごと、地区の合併
- 助け合いができる地域をつくる。
- 学生が安価で食事ができ、域の子どもたちは学生に勉強を教えてもらえるような居場所づくりができれば良い。学生にはバイト料、子どもたちは塾より安く学べるような仕組み
- 課題を解決するための組織を作ること
- 課題に対して対応すること
- 近隣市町を見て、どういう場所に人が集まってきているか、人が集まるにはどういうお店があるかを考える。
- 地域にてコミュニケーションがとれる、見回り（訪問）活動
- 大都市からの利便性を生かして、交流の窓口を増やしてまちの活性化をしていく施策を考えて、三木市でなくてはならない素晴らしい名所などをつくる。
- まちづくり協議会として、防災・減災の啓発を目的とした出前講座
- 三木市内の子ども園、小学校、中学校、できれば高等学校に奉職する全ての教職員はみんな EARTH（震災・学校支援チーム）のメンバーになってもらいたい。
- 農業、農産物、特産品などの町内外への PR 活動
- 後継者育成
- 農業以外にも、何か若い世代の人が魅力を感じて取り組んでいけるようなことがあれば、いろんな世代交流ができて良いと思う。若い人に興味をもってもらえるようなことを地域でも取り組んでいけると良い。
- インターネット等を活用し吉川町の魅力を最大限にアピールする。
- 定年退職した人たち、大学生に活躍してもらおう。
- 生活において常日頃の関係を密に作っておくと災害時に役に立つ。

- 美嚚郡吉川町から三木市に合併して 10 年余り経過したが、何がどう変わったのか実感がない。
- 仕事が最優先のため、時間を作れないのが問題である。町の行事に参加したいという人をつくるのが課題ではと思う。
- 大多数の町民が未来に対して無関心である。情報が少ない。若者が必要と言われるが、実際に権力を握るのは年配の方が多い。市が移住対策をしているが甘い。問題を抱えずぎていてどこから手を打つのかははっきりしていない。
- 金物、農業等、後継者対策が必要
- ゴルフ場の経営母体の安定化が必要である。これからゴルファーの数が減少し、おのずとゴルフ場の数も減少するのではないかと思う。
- 道路の整備が必要で、特に通学路など、自転車等が安全に通れるような道づくりをお願いしたい。
- 田んぼや山をつぶしてソーラーパネルを設置するのは自然環境破壊になると思う。
- 高齢となっても交通機関を利用して地域の人たちと交流したい。
- 関西学院大学が近くにあり、吉川町内から通学圏内である。三田市内より安価な学生用マンションや民家で下宿あっせんなど、企画してみたらどうか。
- 一番の課題である若い世代の人々がこのまちに残り生活していける土台を作ることが大切である。交通の利便性を高めるためにバスを増便する、魅力ある仕事先を作るとか、生活しやすいようにしていただければと思います。
- 国、県、市の制度、法を活用した公共交通の確保と継続をしてほしい。
- 県営住宅の大規模改修をしてほしい。（県営住宅があることの認識）
- 各地区でやりたくもないイベントは無理にしなくてもいい。イベントをするだけが地区のつながりを誇れるわけではない。